

## 保育内容「言葉」の授業の中で取り組む創作絵本作りの考察 — 学生の豊かな言語表現を求めて —

### A Study of Making Picture books for Language Lessons in Early Childhood Care and Education

金谷 公子\*  
(平成29年10月25日受理)

#### 要約

保育内容「言葉」の授業を担当するなかで、正しい言葉、美しい言葉で、自分の気持ちや考えを素直に話すなどの表現力に未熟さを感じてきた。これから保育者になろうとしている学生にとって、豊かな言葉を使い子どもに返していくことが必要であると考え、本稿では、豊かな言葉で表現されている児童文化財に触れていきながら豊かな言葉とはどのような言葉なのか、創作絵本作りを通して言葉の大切さについて考察を試みたものである。その中で、豊かな言葉で表現できるようになるためには、更に良い児童文化財と出会わせていく機会を多く持つことの内容と方法について研究を深めていくことが重要であることが明らかになった。

キーワード：言語、創作絵本、児童文化財

keywords：Language, Making picture book, Children's cultural assets

#### 1. はじめに

幼稚園教育要領の領域「言葉」の「ねらい」では、「(1) 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。(2) 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。(3) 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる」とある<sup>1)</sup>。「言葉」の領域に示されている話すこと、聞くこと、表現するねらいは、自分の思いを伝え、人との関わりをもつ楽しさを味わうことであり、コミュニケーション力を培うものであると考える。

これまで関わってきた学生を振りかえってみると、自分から挨拶をすること、正しい言葉で相手にわかるように話したり、自分の気持ちや考えを言葉で素直に表現することや、相手の話に耳を傾けようとする表現力が苦手なように感じる。また、人との関わりをもつ楽しさに対する認識の未熟さも感じてきた。これから保育者になろうとし

ている学生にとって、自分の思いを豊かな言葉で表現したり、美しい言葉の使い方を子どもに返したりしていくことが必要であると考え。なぜなら、ただ言葉を口にするだけでは伝えたい、伝えなければならない大切な内容が子どもたちに伝わっていないからである。そこで保育者自身が心こもったあいさつをし、正しく豊かな言葉をつかい、こなすモデルになっていくことが肝要であると考え。具体的に豊かな言葉を培う一つとしてあげられるのが児童文化財との触れあいである。児童文化財との関わりでは、学生自身が言葉で表現したくなるようなイメージを創り出す経験や、感動や楽しさを共有しあったり、共に考えたりする体験が可能となる。そこで、本稿では個人の思考と協同的な学習形態による意見交流を重ねながら行ってきた保育内容「言葉」の授業における創作絵本作りの実践の考察を試みたい。

(\*あなたにともこ 保育科講師 保育内容言語)

## 2. 創作絵本作りの実践の意義と手順

まず第1回目の授業の中で創作絵本作りの実践の意義について説明し、創作絵本の制作手順を示した。

### (資料1)

学級番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

#### 保育内容・言葉

#### 手作り絵本

##### 手順

- ①テーマを考える
- ②ストーリーを考える
  - ・好きな絵本等を参考にする
- ③場面展開を考える
  - ・起承転結
- ④場面割りを考えてダミーを作る
- ⑤文を書く
  - ・文字の大きさ
  - ・文字の配置
  - ・文字の字体
- ⑥絵を描く
  - ・画材を選ぶ
  - ・色を決める
- ⑦絵と文を調和させる
  - ・絵と文のバランスを考える
- ⑧表紙・とびら・背表紙・裏表紙・奥付（著者コメント、発行日、発行所）を作成する

##### 本の進行方向

- ・縦書きは左方向へ
- ・横書きは右方向へ

##### ページ数

- ・2ページで一場面
- ・偶数ページで考える

##### 手作り絵本発表会（13回目・14回目授業）

###### いずれの授業にも創作絵本持参のこと

- ・Aクラス 1月 16日（月） 1月23日（月）
- ・Bクラス 1月 11日（水） 1月18日（水）
- ・Cクラス 1月 16日（月） 1月23日（月）

創作絵本の作成にあたり、幼稚園教育要領解説内容（9）に記載されている、「絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像する楽しさを味わう。」に基づきながら、なぜ幼児期に絵本や物語の世界に親しむ、浸かる体験が大切であるか伝えた。その中身としては絵本や物語に親しむ中で登場人物になりきることなどにより、自分の未知の世界に出会うことができ、想像以上の世界に思いを巡らすことができる。その過程で、なぜ、どうして、という不思議さを感じたり、わくわく、ドキドキして驚いたり、感動したりするなど様々な気持ちに触れ、他人の痛みや思いを知る機会ともなることなどの意味を伝えていった。それらを踏まえて、幼児期に触れさせてみたいオリジナルな

「世界に一つだけの絵本を作りましょう。」「一生の宝物になるような絵本を作ってみましょう。」と投げかけた。その後絵本作りに向けて、興味、関心がわくように、創作絵本を作成してみたいと思えるように、そしてまた絵本作りの指標にもなるようにと願い昨年度の学生が作成した創作絵本を回覧したり、それぞれの創作絵本の良さについて話したりしていった。

初めは学生たちも、「すごい上手。こんなに上手にできへん。」と消極的であったが、なかには自分たちでも出来そうな絵本を見つけては、「これぐらいだったら出来そう。」と少し安心したり、何となくではあるが自分だけの絵本を作成したいと思える気持ちに心が向いていったようだった。最後に「創作絵本にとって大事な事は、作る人の心が大切であること。絵本を読んでもらう相手の笑顔を見るための絵本作りが基本であることを常に思いながらスタートしましょう。」とつけ加えた。

次に創作絵本創りについて特に（資料1）の④までを具体的に説明をしながら手順を示した。

表1 創作絵本の手順

- ①テーマについては
  - ・どのようなジャンル（例えば、食べ物、動物、乗り物絵本など）の絵本を作りたいか考えてみる
  - ・誰に、何を、どうするか考えてみる。
- ②ストーリーについては
  - ・好きな絵本を参考にする。
- ③場面展開を考える。

文章を考えていく時の物語の「構成の方法」「起承転結」の書き方に具体的に物語から説明を行った。その例として学生も全員が知っている昔話「桃太郎」から理解をさせていった。

表2 構成の方法の指導例

- 起・桃から生まれる桃太郎（ストーリーの導入）  
 承・犬、サル、キジを仲間にして鬼退治へ向う（転に向かってストーリーを進める）  
 転・鬼ヶ島で鬼と対決（一番盛り上がるパートクライマックス）  
 結・平和な世界（終結）

起承転結の理解については学生の表情、発する言葉から窺えた。

#### ④の絵本作りのダミーについては

本としての雰囲気をつかむために実物大のモデルを作ることを伝える。実物大だと、本描きの際に直接トレースをして描けるので便利であることも伝える。実物大のモデルは薄手の画用紙をホチキスやクリップで留め本の形にすることを進める。

⑤～⑧については、進行状況を見ながら話していくことにした。尚、絵本の本体は「画用紙絵本ノート」小12枚綴りを市販で購入させた。

### 3. 「保育内容 {言葉}」の絵本の読み聞かせの授業の実際

毎回の授業の中で第1回目から第12回目まで絵本の読み聞かせを行った。また、13回目・14回目は学生の創作絵本の読み聞かせの発表会にあてた。絵本を制作するにあたり、どのような絵本が良いのか、どのような言葉が使われているのか。また、年齢に応じての言葉の使い方、絵の色彩や輪郭がどのように表現されているのかなど、イメージが持ちやすいように様々な絵本の読み聞かせを行った。その際に設定した絵本選びのポイントとその理由について示していく。

#### (1) 乳児向け絵本の選択のねらい

- 第1回目は「いないいないばあ」
- 第2回目は「おつきさまこんばんは」
- 第3回目は「がたんごとん」を使用した。

上記の第1回目から第3回目までの授業では乳児向けの絵本を選択した。その際、意識していたポイントは、以下の①～③の通りである。

#### ①シンプルな繰り返しが出てくる本

例えば「いないいないばあ」では、次にどのような顔が出てくるのか、「がたんごとん」では次にだれが乗ってでてくるのかなど、子どもが展開を想像しやすく準備ができるので楽しい。知ってい

るから何度も聞きたい。予測ができることでより楽しめる。

#### ②リズムカルな言葉やわかりやすい言葉、美しい日本語で表現された本

例えば「がたんごとん」では「のせてくださーい」とコップとスプーンが乗車。がたんごとん「のせてくださーい」とリンゴ・バナナが乗車「のせてくださーい」でネコとネズミが乗車。みんなをのせて「がたんごとん」など言葉も丁寧に表現されており、何度も読み聞かせていくうちにきちんとした言葉が獲得できて嬉しい。

#### ③絵の色彩や輪郭がはっきりしている絵本

例えば「おつきさまこんばんは」ではお月様のやわらかい色合いとお月様のやさしい表情が素敵に表現されているので、聞き手が笑顔になる。特にお月様の表情がやさしさ笑っている楽しさ、挨拶している楽しさ、お月様が雲を吹き飛ばす楽しさなど、それぞれの表情が豊かに伝わってくる。

#### (2) 3歳児～5歳児向け絵本の選択のねらい

- 第4回目は「めっきらもっきらどおんどおん」
- 第5回目は「ちいさいおうち」
- 第6回目は「ぐりとぐら」
- 第7回目は「はじめてのおつかい」
- 第8回目は「きょうはなんのひ」
- 第9回目は「おいしいおと」
- 第10回目は「ぐるんぱのようちえん」
- 第11回目は「てぶくろ」を使用した。

第4回目から第11回目までは3歳児から5歳児向けの絵本を選択した。これらの絵本選定のポイントと理由は、下記に示す①～③の通りである。

#### ①絵本の文章を耳で聞いて楽しむ絵本

絵本は、子どもが耳で聞いて目で読む絵本である。五感を活かしてはらはら、どきどき、わくわく、主人公に共感できることが楽しい。例えば読み聞かせの第7回目の「はじめてのおつかい」では、主人公の、その時その時の表情、姿、を読み

手の語りから感じとることができる。主人公に共感し、励まし、応援しつつのまにか絵本の世界と一体化し、主人公に同化している。他の絵本も同様である。

### ②文章と絵がよくあっていて、語りと絵による相乗効果で表現されている本

絵本は、子どもが耳で聞いて、耳で聞いた言葉が本当にそうであるか絵を見つけていく。それだけに、文章と絵がよくあっていることは重要である。例えば、第6回目の「ぐりとぐら」では、大きなボウルにタマゴを割ってエプロン姿でカステラをつくる。「ぐりとぐら」の絵は本当にイラストと文章がマッチしていて、そこに読み手の語りが加わり、最後のカステラではおいしい匂いまでしてきそうである。読み手も楽しいし、聞き手は更にイメージが膨らみ嬉しい。いわゆる絵と語りの相乗効果である。

### ③わかりやすく簡潔である本

文章が短く、理解ができやすい。例えば第11回目の「てぶくろ」では、てぶくろの中に「わたしもいれて」とかえるやうさぎ、動物たちが次々やってきて、てぶくろのなかに入っていく。次はだれがやってくるかな。と楽しみながら次の頁をめくることができる。

それぞれの授業では、読み聞かせを行った後にグループ協議を行い、①どこが良かったか、②何が楽しかったか、③どの言葉が素敵だったか、④どの表現がイメージがわきやすかったか等をポイントに意見交換を行った。

76名の学生たちの中ではほぼ同意見であったのが第1回目から第3回目までの絵本では、以下のような意見が多く見られた。

表3 グループ協議での学生の意見

「言葉が端的でわかりやすく、次のページにでてくる言葉の予測がたち、ページがめくられると『やっぱり。そうだった』と安心して楽しむことができました。」  
「言葉があたたかくて聞いていて気持ちがやさしくなってきた。」

つまり、学生たちは筆者による絵本の読み聞かせにより絵本には「わかりやすさ」「見通し」「安心」が重要であるという認識が育まれたということがいえよう。

第4回目に読み聞かせを行った「めっきらもつきら どおんどおん」の絵本では、リズムのよいシンプルな文章と、スピード感のある展開が魅力のようであった。「ちんぷく まんぷく・・・めっきら もつきら どおんどおん」という歌も印象に残るようで、いつまでも口ずさんでいた。冒険作品なのだが安心して楽しめるところが気に入っているようだった。何回か読み聞かせを行ない、意見交換をしていくうちにどのような絵本を創りたいかが明確になっていったようである。読み聞かせ実践によって学生たちに共有されたポイントは表4のようなものである。

表4

- ①乳児から1歳未満児ぐらいの子どもには簡単な文章で繰り返し進んでいく、絵が大きく、挿絵でも楽しめる絵本が良い。
- ②ありがとうという言葉が出てくる絵本は何度聞いても嬉しい。気持ちがあたたかくなるような絵本が良い。
- ③2歳児以上児でも文章はあまり多くなくわかりやすい絵本が良い。
- ④3歳児以上児になると冒険、ファンタジーのお話が興味を引くのではないか。

しかし、いざ制作を始めると、どのような文章が子どもに理解できるのか、悩んでいるようであった。そこで年齢にあったことばを選択してやることにした。

#### 4. 「保育内容（言葉）」における「年齢にあった言葉」の演習

第5回目から第6回目において、「子どもたちの発達にあわせた言葉選び」ということに主眼を置いた。そこで、対象年齢の示されている絵本を選択させ、そこで使用されている特徴的な言葉を選ばせて、そこで使用されている特徴的な言葉を選ばせていった。

#### 乳児から1歳児未満児

赤い丸、白いねこ、緑のかえる、お母さんの顔等、色と動物、形が特徴になっていることに気づいた。

1歳以上児になっていくと、簡単な言葉であっても正しい言葉で表現されていること。3歳以上児になってくると、かなり難しい言葉でも表現されていることが理解できた。難しい言葉でもそこに絵の表現方法と一致できることで楽しめることも理解できたようだ。最終的には自分が創りたい絵本の言葉と向き合いながら、それぞれが自分なりの言葉を導き出し、絵本の創作に取りかかった。次に、学生の創作絵本について紹介する。

#### (1) 学生の創作絵本

##### 1) タイトル：「ありがとう」

絵本の対象年齢は3歳児以上、著者である学生の制作（意図）は、「いろんな動物たちが助け合いながら生活し「ありがとう」という言葉を通し、友情が深まり優しさが溢れるような絵本になるように仕上げた。」というものである。

(資料2)



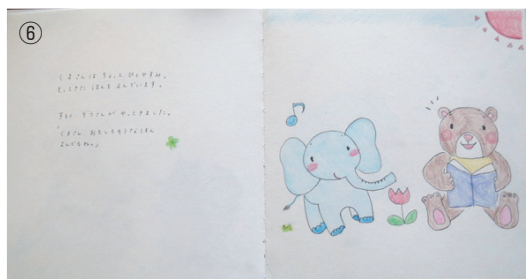
- ①おさんぽが だいすきな くまさん。  
きょうも おさんぽ にでかけます。  
いいてんきで とっても いいきもち



- ②くまさんが おさんぽを たのしんでいると  
うさぎさんに であいました。  
あっ！ふうせんがとんでいってうさぎさんが  
こまっています。



- ③ くまさんは おおきなからだを いかして  
ふうせんを とってあげました。  
「はい どうぞ。」  
「くまさん ふうせんとってくれて ありがとう」



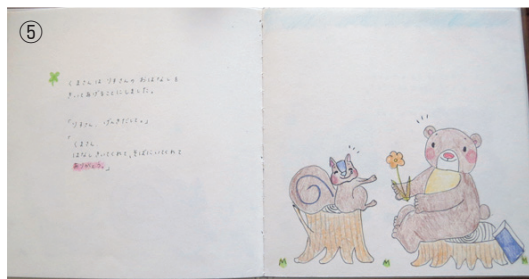
- ⑥ くまさんは ちょっとひとやすみ。  
もってきたほんを よんでいます。  
すると ぞうさんがやってきました。  
「くまさん おもしろそうなほんよんでるね。」



- ④ おさんぽさかい！ とおもいきや こんどは  
りすさんに であいました  
りすさんは とてもかなしそうです。



- ⑦ 「ぞうさんも よんでみる？」  
くまさんとぞうさんは なかよくいっしょにほ  
んをよみました。  
「くまさん、ほんをかしてくれて ありがとう。」



- ⑤ くまさんは りすさんのおはなしをきいてあげ  
ることにしました。  
「りすさん、げんきだして。」  
「くまさん、おはなしきいてくれて、  
そばにいてくれて ありがとう。」



- ⑧ 「きょうは いろんなことがあったなあ・・・。」  
「みんなにであえて よかった。」  
くまさんは さんぽをおえて  
いえに かえることにしました。  
あしたも たのしいひに なりますように。



- ⑨つぎのひ。りすさん、うさぎさん、ぞうさんがくまさんのいえに やってきました。  
「くまさ〜ん。」「くまさ〜ん。」  
きょうは くまさんの おたんじょうびです。



- ⑩「くまさん おたんじょうびおめでとう！」  
「いつも ほくたちに やさしくしてくれてありがとう。」  
くまさんはとてもうれしそうです。  
みんなのおかげで しあわせなたんじょうびをすごすことができました。



- ⑪みんな ありがとう

## 2) タイトル：たからをさがせ

### 「わくわくかいぞくだん」

絵本の対象年齢は4歳児以上、著者である学生の制作（意図）は、「子どもは、海の生き物や動物などいろんなものに対して「あれなに？」と興味を持ち、知識を身につけていきます。また自分が知ったことを人に教えてあげたりすることも好きです。この絵本では、クイズ形式にすることで子どもに好奇心をもたせ、考えたり答えが当たっていた時の喜びや満足感を味わったりすることができます。試練をのりこえた先には嬉しいことや自分自身プラスになることがたくさんあるということも伝わると嬉しい。」というものである。

#### (資料3)

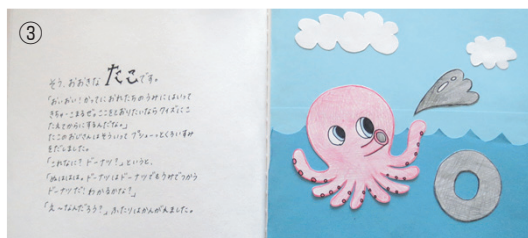




①ひろいひろいうみのうえに ひとつのかいぞくせんがうかんでいます。  
 わくわくかいぞくだんの なかよしふたりぐみがおおきいおたからを見つけるたびにでかけたのです。さて おたからを見つけることができるでしょうか。  
 げんきいっぱいのおおきいひろいうみのうえをうたいながらたびしていると。



②ザッブーン  
 うみのなかからあかてまるいあたまがでてきます。  
 「おいおい！おまえたちはだれだ！！」  
 と うみのなかからおおきなこえでいきました。  
 これは だれかな？



③そう、おおきなたこです。  
 「おいおい！かってにおれたちのうみにはいつてきちゃこまるぜ。  
 ここをとおりたいならクイズにこたえてからにするんだな。」  
 たこのおじさんは そういうとプシューッとくろいすみをだしました  
 「これなに？ドーナツ？」というと  
 「あははは。ドーナツはドーナツでもうみでつかうドーナツだ？わかるかな？」  
 「え。なんだろう？」ふたりはかんがえました。



④「そうか！わかったぞ！こたえは うきわだ！」  
 ふたりはかおをみあわせていきました。  
 「せいかい！あてることができたからこのうきわをあげよう。  
 このさきもきけんがたくさんあるからきをつけるんだぞ。」  
 といったたこのおじさんがふたりにうきわをくれました。  
 「たこのおじさんありがとう」  
 うきわをもらったふたりのたびはまだまだつづきます。

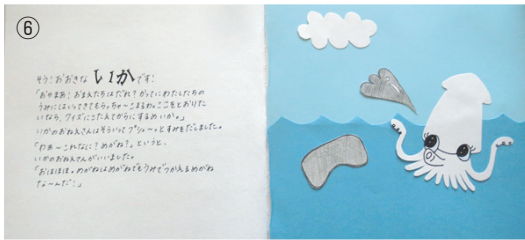




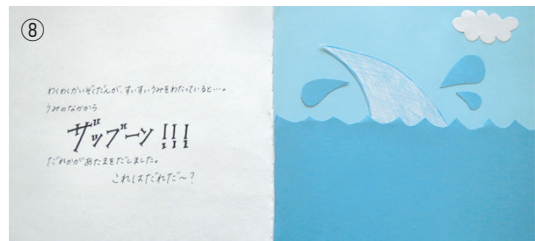
- ⑤げんきいっぱいうたをうたいながらたびをして  
していると・・・  
ザッブーン！ザッブーン  
うみのなかからしろいとんがりあたまがで  
きました。  
これはだれかな？



- ⑦「わかった！すいちゅうめがねだ」  
「せいーい。あたったからそのすいちゅうめ  
がねふたりにあげるわ。このさきはうみがふか  
いからきをつけるのよ」  
といかのおねえさんはいってすいちゅうめがね  
をくれました。  
「はーい。おねえさんありがとう。」  
まだまだたびはつづきます



- ⑥そう！おおきないかです。  
「おやまあ！おまえたちはだれ？かってにわた  
したちのうみにはいってきてもらっちゃーこま  
るわ。ここをとおりたいならくいずにこたえて  
からにするめいか。」  
いかのおねえさんはそういってプシューッとす  
みをだしました。  
「わあーこれなに？めがね？」という  
いかのおねえさんがいました。  
「おほほほ。めがねはめがねでもうみでつか  
えるめがねなーんだ。」



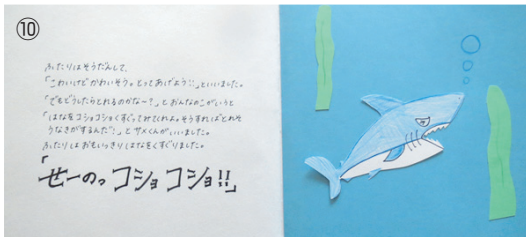
- ⑧わくわくかいぞくだんがすいすいうみをわたっ  
ていると・・・  
うみのなかから  
ザッブーン  
だれかがあたまをだしました。  
これはだれだー？



⑨ 「キャー！！サメだ！！」  
ふたりはサメをみてこわくなってしまいました。ところが、あれ？さめくんのようすがおかしいです。  
「うわーん。ほくののどになにかつまってとれないよーだれかとってー！」とないているではありませんか。これはたいへんです。



⑪ 「はっはっはっくしょーん！！」  
サメくんがおおきなくしゃみをするとなんとくちのなかからカギがでてきました。のどにつまっていたのはカギだったみたいです。  
「ありがとう！すっきりしたよ。おれいにこのカギをあげるね。バイバイ！！」  
といてふたりにカギをわたしてサメくんはいってしまいました。



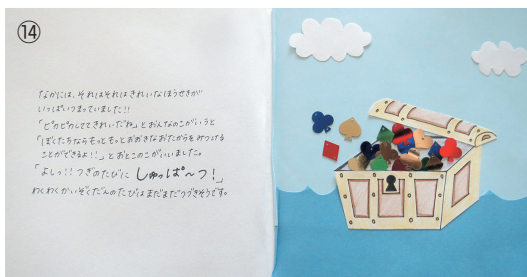
⑩ ふたりはそうだんして  
「こわいけどかわいそう。とってあげよう！！」  
といました。  
「でもどうしたらとれるのかなー」とおんなのこがいうと、  
「はなをコシヨコシヨくすぐってみてくれよ。そうすればとれそうなきがするんだ」  
とサメくんがいました。ふたりはおもいっきはなをくすぐりました。  
「せーのっ コシヨコシヨ」



⑫ ところがそのときです  
ピカッゴロゴロッ ザッブーン！！  
たいへんです。おおきなあらしがふたりをおそいました。  
わくわくかいぞくだんのふねはこわれてしまい、ふたりはひっしにうきわにつかまりました。



⑬ようやくあらしがおさまりすいちゅうめがねでうみのなかをのぞいてみると・・・  
 「あれ？なにかがみえるよ？」「あれ、たからばこだ！」  
 「やったーっ！！」  
 ふたりはこえをあわせておよろこび。  
 サメくんからもらったカギでたからばこをあけてみると・・・

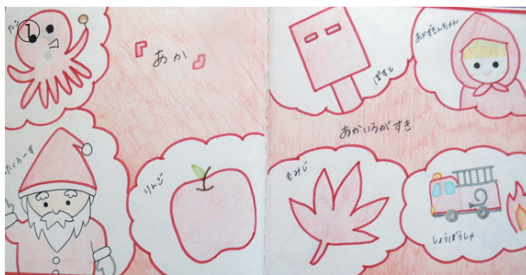
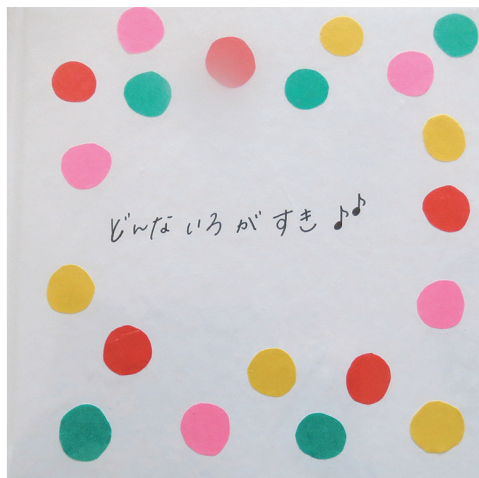


⑭なかには、それはそれはきれいなほうせきが いっぱいつまっていた！！  
 「ピカピカしててきれいだね」とおんなのこがいうと「ぼくたちならもっとおおきなおたからをみつけることができるよ！！」  
 とおとこのこがいました。  
 「よし！つぎのたびにしゅっぱーっ！！」  
 わくわくかいぞくだんのたびは まだまだつづきそうです。

3) タイトル：「どんないろがすき♪」

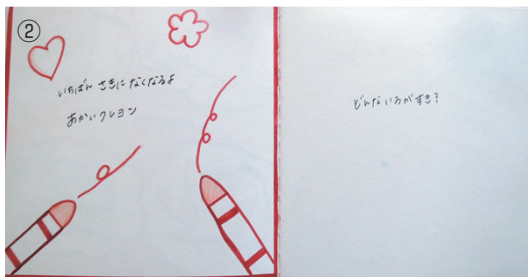
絵本の対象年齢は3歳児以上、著者である学生の制作(意図)は、「楽しみながら色に興味を持ってもらいたいと思いこの絵本を作りあげた」というものである。

(資料4)

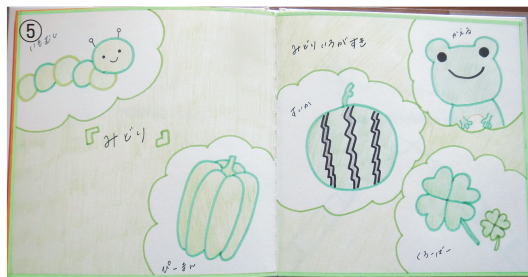


①「あか」あかいろがすき

たこ、さんたくろーす、りんご、ぼすと、もみじ、あかずきんちゃん、しょうぼうしゃ



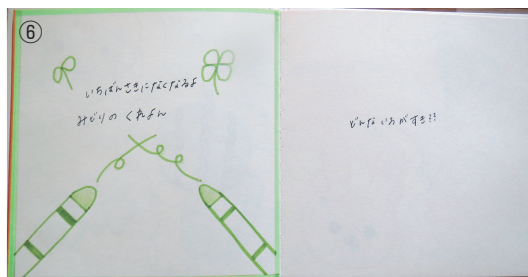
②「いちばんさき」になくなるよ あかいくれよん  
どんないろがすき? ?



⑤「みどり」みどりのいろがすき  
いもむし、ぴーまん、すいか、かえる  
くろーばー



③「きいろ」きいろいろがすき  
ばいなっふる、ひよこ、ばなな、とうもろこし  
ひまわり



⑥「いちばんさき」になくなるよ  
みどりのくれよん  
どんないろがすき? ?



④「いちばんさき」になくなるよ きいろくれよん  
どんないろがすき? ?



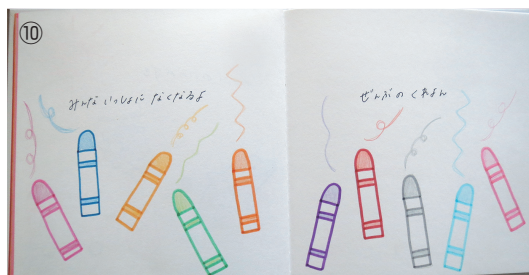
⑦「ぴんく」ぴんくのいろがすき  
うさぎ、さくら、さくらもち、もも



⑧いちばんさきになくなるよ ぴんくのくれよん  
どんないろがすき? ?



⑨「ぜんぶ」 ぜんぶのいろがすき



⑩みんないっしょになくなるよ ぜんぶのくれよん

## 5. 学生の創作絵本発表会での保育実践

14回目と15回目の授業では、創作絵本の発表会を行なった。それぞれの絵本に対して、いろいろな意見が交わされたがその代表的なものを以下に示してみる。また、同時に創作絵本を作成する保育内容言葉の授業そのものについての感想も紹介する。

表4 創作絵本の発表を聞いての感想

- 文章が読みやすくてわかりやすい。
- ていねいに仕上げている。
- 絵がきれいで素敵でかわいい。私がほしい絵本である。
- 繰り返しが多いので、ページをめくるのが楽しい。
- 仕掛け絵本なので一緒になって言葉をいったりして楽しめる。
- 長い文章だけれど次はどうなるのか楽しみながら見ることができた。
- もっとみたい。何回も読んでほしい・見たいと思う。
- 文章と絵がびったしなので、耳で聞きながら絵を見ることができる。

以上の様な、それぞれ感想の伝え合いができた。絵本の読み聞かせも絵本が自分のものになっていて、どの言葉をゆっくり読むか、丁寧に表現するか、スピード感をもって読むかなど、自分のものになっていたことも毎回の筆者の絵本の読み聞かせであったり、演習が学びに繋がっていると感じた。

表5 創作絵本制作そのものについての感想

- 良かった点
  - ・絵本を作るとき、子どもたちが喜ぶ顔を想像しながら作ったのでとても楽しくワクワクした気持ちでした。
  - ・自分で作った絵本を実際に保育園・幼稚園で読み聞かせをしたいです。
  - ・出来上がるとすごくうれしくて宝物にしたいと思いました。
  - ・絵が苦手なので形を表現したストーリーにしたが、思い通りの絵本ができあがったと思う。
  - ・再度絵本創りに挑戦してみたいと思う。
  - ・好きな絵本の言葉を参考にしていったので意外とスムーズにストーリーが描けた。
  - ・内容を考えるときに何冊も絵本を参考にしながら考えていったが、最終的には年齢を選択し、わかりやすい内容ということが一番考えたことが良かった。
- 大変だった点
  - ・ストーリーを考えるのがとても大変だった。
  - ・自分の決めた年齢に合った言葉づかいや絵のタッチを考えるのが難しかった。
  - ・絵は紙で切り絵にするか、色鉛筆で描いていくか等、何で描写していくかが難しかった。・内容を考える時に行き詰まり、歌の絵本になってしまった。

## 6. 考察 一まとめにかえて一

本稿では上記の3つの創作絵本を紹介した。3つの絵本を選択した理由として、「ありがとう」は、日常生活でのコミュニケーションの第一歩はあいさつからといわれるぐらい、あいさつは大切な言葉である。どいうときにどんなあいさつをするのか、いろいろな機会を通して学んでいく必要がある。「ありがとう」では、人に何かをしてもらった時、嬉しい気持ちを「ありがとう」という言葉で伝える大切さを様々な場面を捉え素直に表現できている。

「たからをさがせ わくわくかいぞくだん」では、この絵本も何かをいただいたときにはきちんと「ありがとう」という言葉を強調している。また、海を探検していきながら子どもたちが知っている生き物をクイズ形式であてていくのも子どもたちの興味をそそる。絵と文章のバランスも良く、文章を耳で聞いていてもイメージが伝わりやすい表現になっている。

「どんな色がすき」は、歌に合わせて絵が描かれているが、子どもたちがよく理解できる色の言葉が選択できていて、歌わなくても色の言葉遊びとして楽しめる表現になっている。

このように創作絵本の制作では、ストーリーを考えるのが大変だった学生と、好きな絵本を参考に言葉を選択していき、スムーズにストーリーが描けたという両極端の感想があった。しかし、学生達は、「何か」を指標として、推測して言葉を選択し、使用することを学んでいる。実際の保育現場に立つ際も、子どもたちの「生の言葉」を聞き、それを保育者が指標として、言葉を選択、使用していく姿が想像できる。創作絵本を制作していくことにより、児童文化財を取り入れていくことで「言葉」に対して主体的に思考し、作品を完成させることで、言葉の大切さ、言葉の理解が深まったのではないかと考える。今後は、授業実践の成果としての絵本、絵本の発表会と意見交換、そして学生に対してのアンケートを踏まえて考察を行う予定である。

本授業での児童文化財での関わりを通して学生自身が言葉で表現したくなるようなイメージを創

り出す経験や、創作絵本制作を通して、自分の気持ちや考えを素直に表現する点においては、力が備わってきたように感じる。しかし、正しい言葉、美しい日本語で相手と話すということとは別の視点であるように感じた。今後の課題については、学生の言葉のコミュニケーション力の未熟さであったり、自分の思いを正しい言葉、豊かな言葉で表現できるようになるためには、自分なりに努力をする必要はあるが、①更に良い児童文化財と出会わせていく機会を多く持つことと、②指導していく教員が正しい日本語で話したり、美しい日本語で丁寧に話していくなどの工夫を具体的にやっていくこと、その内容と方法について研究を深めていくことが重要であることが明らかになった。

### 〈引用文献〉

1) 文部科学省「幼稚園教育要領解説」2008年

### 〈参考文献〉

文部科学省「幼稚園教育要領解説」2008年